

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点【創造科学系】

L科目二つは同じ内容の授業で、画論や作品の基本的な事項に関する情報などを記載したプリントを作成して配布した。それに加えて、画論の内容解説とともに、美術作品に関する内容であるので作品の画像に説明を加えたスライドを作成し、音声データと共に「まなびネット」にアップした。また、オンデマンドの遠隔授業であったため、毎時間講義内容をまとめる小レポートを課し、寄せられた質問に対して毎時間回答した。

今回のアンケートに関しては、回答率が前者で37.9%、後者で41.0%と例年よりやや低かった。また、同じ内容の授業であるにもかかわらず、問1・問2ともに後者の方がやや評価が高かった。これは、授業内容を何度も見直せたり、授業資料を拡大したりできる遠隔授業の良さを後者の履修生の方が評価したのかと考える。

一方、講義内容をまとめることを課題とした小レポートについて負担が重い等の意見があり、字数の見直しなど改善を図りたい。また、課題の説明やフィードバックの仕方にも工夫が必要かと思われる。

今回はオンデマンドのPDF資料の作成に特化した。

「情報デザイン」という趣旨で「読むだけ、見るだけで伝わる情報」の在り方に腐心した。

また毎回のミニレポートのすべてに教員からのコメントを付け「全員分」を匿名で受講者全員に提供した。そこで他者の考えと教員の考えを広く伝え「双方向」的な紙上でのコミュニケーションを心がけた。

直観や実感を伴う教材・教具を用いた授業。

実際の教育現場での活用を見据え、実際の授業における指導場面を意識した授業。

授業を展開するにあたって、さらに緻密な内容の準備と双方向の過程を意識し、改善をはかりたい。

遠隔授業用に新しく教材を作成した。自宅学習のため、様々な疑問を想定して対寧に取り組むと、予想以上に作成、修正に時間がかかった。オンデマンド型の遠隔授業では授業のねらいが伝わりにくいことがあるため、今後は改善したい。

今年度は歌唱を伴う授業のため、全て遠隔で行った。レポートの提出と録画を送付させ、毎回、個々にアドバイスを書いて送った。11名しか回答されていないが、ほぼ授業の目標に到達出来たかと思う。

歌唱の授業の為、コロナ感染予防の為、遠隔と対面を交互に行った。対面授業を全て行った方が良いのはわかっているが、授業目標はかなり到達できたかと思う。

3人しか回答していないので、どう評価して良いか難しいが、コロナ感染防止のため、遠隔、対面を隔週に行なったが、目標にはほぼ到達できたかと思う。

一人しか回答していないので、評価するのは難しいが、学生からは遠隔、対面の隔週での授業実施であったが、大きな不満もなく、授業目標はかなりのレベルで達成できたかと思う。

S科目2授業とS2科目(2コマ)を担当したが、いずれの授業も新型コロナに対応するため、課題を与えてレポートを毎回提出する形式を取った。学生がレポート鬱にならないよう、課題の量については配慮したつもりである。また、できるだけインターネットなどの情報から自分で調べてレポートを作成するよう、調査能力の向上にも心がけた。

アンケート結果を受けて、S科目(1)では、指示した課題に対して自分で問題点を深く考えたと回答したものが「ややそう思う」に集中していたことから、ある程度の効果はあったと考えられる。また、新たな思考を展開したについても「ややそう思う」に回答が集中していたことから、一定の効果はあったと考えられる。

S科目(2)では、自分で問題点を深く考えたと回答したものが一番多かった反面、「どちらともいえない」が受講者の18%いたことから課題が適切でなかったとも考えられる。今後の課題としたい。新たな思考を展開したかについては、「強くそう思う」が受講者の27%、「ややそう思う」が73%であったことから、目的は達成されたと考えられる。

S2科目では、自分で問題点を深く考えた、新たな思考を展開したが、「強くそう思う」「ややそう思う」「どちらともいえない」に回答者が分散した。受講者の中には、課題に対して満足度が低かったものもいたことがうかがえる。今後課題を出すときには、小学校体育の教え方について、自分で問題点を考えだし、自分で新たな提案をするような課題を出すことにしたい。

また、自由記述では、どの授業もレポートを提出する時期が集中して大変だったとか、対面授業がよかったなどの声があった。やはり、大学の授業は、学生と対面で行い、コミュニケーションを取りながら、進めていくのがよいと感じた。令和3年度の前期は、今のところ、担当科目のすべてを対面で行い、学生とのコミュニケーションを取りながら、授業内容についての議論を深めるよう努力している。

#### <前半 対面>

- ・実際に学生が実習で楽しんでいる様子であった。
- ・釘打ち技能、かんながけ技能、鋸引き技能について、技能の上達具合を見やすくしたり、刃物が材料に与える変化をイメージしやすいように、教材化を工夫した。鋸引きについては、タブレットを用いて動作のモニタリングを行いやすくしたことで、技能の習得が効率よく行うことができ、成就感ももてたように思う。そのことがアンケートへの回答に読み取れた。

#### <後半 遠隔>

- ・遠隔授業においても、実習の機会を増やす努力を行いました。
- ・今回のアンケート結果を踏まえ、実習関係は、対面にて行う、内容を変えるなどの改善が必要と思いました。

授業では、基礎的な概念を習得することを重視し、認識内容の違いが大きく異なった事例を取り上げて説明しています。アンケートを見て、回答者が少なかったけれども、自分で調べた学生がいたので、授業で意欲を幾分かもたせることにつながったのかなあ、と思いました。しかし、欠席分の内容を埋めることができいなかった学生もいました。割合が少し増えている印象を持っています。学習内容の消化が不足している学生へのサポート策を多様に用意することと、学生がもっと自信を持てるように工夫を進めたいと思いました。

他者の意見を、前向きに取り込める学生が多いと、全体の学びも豊かになります。真逆の場面も若干みかけました。当たり前のことですが、授業での個人と集団との関係について、振りかえって考えることも大切だなあと最近強く思っています。目立たなくても、しっかりと取組み、自分のためだけにない言動をしている人の学びは豊かであり、他の人の学びも豊かになることにつながっているように思っています。良い流れは是非続けたいと強く思っています。

#### S科目

授業に対するアンケートの回答は「強くそう思う」と「ややそう思う」を合わせて、問1の「自分で問題点を深く考えた」で94%であり、問2「文献やインターネットなどで調査」においても94%であったことから、良好な結果が得られたと思っている。前回調査では、学生の中には、興味を持って、調べるという行動に移さない者も一定数いたが、今回の調査結果は、「調べ学習」の内容を盛り込んだ授業の成果であると考えている。

また、自由記述からは「スライドの資料がわかりやすかった」「パワーポイントでの解説も丁寧でわかりやすく、スムーズに受講できた」「作業はオンラインで進め、作品を完成させるときには対面で行い、効率のいい進め方だった」「作品にかかる時間を自分で決められ、集中したい自分にはやりやすかった」などの肯定的意見が多くあったが、「すべて対面授業がよかった」という意見もあったことから、県内外のコロナウィルス感染の状況も踏まえつつ、遠隔授業の回数をなるべく減らす努力も必要だと感じた。

#### S科目

授業に対するアンケートの回答は、問1の「自分で問題点を深く考えた」で94%であり、問2「文献やインターネットなどで調査」ともに「強くそう思う」が100%であったことから、たいへん良好な結果が得られたと思っている。この授業は対面で全て行ったかが、今後も可能な限り、対面で実施しようと考えている。

年度当初は遠隔授業を実施していたが、学生より次のような要望を受けたため、大学側と交渉を重ねた上で対面授業と遠隔授業の併用へ移行した。

- ・日中も家族が在宅勤務をしたり授業を受けたりしているため、音楽関係の授業を受けにくい
- ・自宅が防音ではないため、遠隔で授業を受けたくても自宅で音を出して演奏しにくい
- ・下宿生 & 寮生であるため、スマホの契約通信量を超えてしまい、追加料金を徴収されてしまう

実際の授業運営では、特に換気に気を配って実施した

担当した授業は少人数での授業だったため、相談の上Zoomを用いて授業を行った。パワーポイントで作成した授業用資料を用いて、随時、学生の意見や考えを聞くように心がけた。また、学生からの質問等は授業時間外でもメールで受け付けるようにした。

S2は本来実技の授業であるが、遠隔による授業形式であることで、従来とは異なる学びを提供できたと思われる。しかし、現場の授業で生かすためにはやはり実技を伴う方がよく、遠隔の資料提供において、その点を補うだけの工夫は足りなかった。

- ・新型コロナの感染数が、比較的少ないと思われた前半部分(9月～11月)を対面授業とし、比較的多くなりそうな後半部分をオンデマンド授業とした。対面授業で学べた満足感、オンデマンドで自分のペースで学べる良さ、双方が学習者の感想として見られた。
- ・オンデマンドによる実技授業では、各自の作品を相互閲覧できるようクラウドを活用し、定期的に各自に講評(良い点や改善点)を送った。このように対面授業に近い授業を構想したことで、深い学びを実感できたという感想が多かった。

すべて対面ができた授業と、教室の広さによって、遠隔と対面を織り交ぜる形式にせざるを得なかった授業があるが、やはり、遠隔での授業は工夫が必要であった。資料だけではなく、動画も取り入れて、隔週になっている学生のお互いの模擬授業の様子を見る回を作ったが、動画そのものを見やすくする工夫などがさらに必要であることがわかった。

授業資料を読書形式で理解していただけることを心がけて講義内容を構成した。毎時のレポート課題に対するコメントや解説を次回の講義のはじめに行う反転授業の要素を若干盛り込んだ。講義内容はできるだけ平易な言葉で説明し、必要な専門語については受講者が自学できるように文献案内を付すようにした。また、説明内容のイメージをし易くするために動画資料を盛り込んだ。

新型コロナウイルス感染症感染拡大のため、今年度から初めて、オンデマンド授業に取り組みました。教えなくてはいけない部分を確実に押さえるために、提示スライドに教科書の対象ページを示し、照らし合わせて学習するようにいたしました。授業コンテンツは、同じ形式ばかりでなく、教科書を離れた講義、インターネットの各省庁の作った動画を見ていただいたり、調べながら記入する穴埋め学習を試みたり、様々にしてみました。今回、課題の掲示と締め切り時間についてご指摘があり、学生が余裕を持って取り組めるよう締め切りにも工夫をしようと思います。

対面授業にしたが思った以上に学生からの評価は高かった。

15回の授業には数回のグループディスカッションや、自主課題調査の報告会、ゲームを取り入れたワークショップなどを入れてきたが、新型コロナの影響を受けて、参加型教材の使用、双方向型活動が少なくなった。授業後の感想や質問等の提出を依頼し、次の授業の始めに感想や質問に対する回答を伝えるのはほぼできた。1回目の授業で、受講学生にアンケートをとったところ、圧倒的に対面を希望する学生が多かったが、講義室の面積の割に学生数が比較的多く、半数ずつクラス分けをし、授業と課題を並行する方式とした。また、後半にはコロナ感染の状況が悪化してきたこと、他の授業がオンラインのため当該授業参加の目的での通学の感染リスクを考慮して、オンライン授業を促す方針に切り替えたため、計画通りの授業が難しくなった。アンケート結果を受けて、今年度も可能であれば対面授業が望ましい授業内容であっても、ワークショップ部分の代替に使える動画作成などを試み、状況によってはオンラインでの報告会も試みたい。

オンラインと対面の両方を併用して授業を行ったが、それぞれのメリットを活かせるように授業の仕方、内容を考えて行った。特に実物を見てもらい、触ってもらうことは対面でないとできないので、それができたことが、結果的に学生からの反応も良い方向につながったと思います。

なるべく学生が主体的に学ぶ姿勢を作るため、私から細かい指示をあまりださず、自らの考えに従って、課題を進めるよう指導している。また、課題の参考となる画像や動画を多く使い、視覚的にわかりやすいように、教材を作っている。コロナによる教室定員の関係で、オンデマンドと対面のハイブリッドでやっているが、他者の作品や制作風景を見る機会が対面のみでの授業に比べ、少ない点が改善点として挙げられる。作品の途中経過なども、写真に撮って、お互い共有できるシステムなどの構築を検討したい。

遠隔の授業での工夫点として、対面に近い形で実施できるように常に教師の顔を出した映像を用いた。前回の授業の質問に対するフィードバックも動画の中で解説し、丁寧に行った。また、実際の現場での授業映像も多く取り入れ、その中に解説もいれながら行った。実技は対面中心で行い、感染症対策を十分に行った上で滞りなく実施することができた。

対面が可能な場合では、学生の皆さんの質疑とその応答で進めるようにした。そのため、感染症予防等によりオンデマンド型となると、一方通行になってしまった。メールをいただいた学生の皆さんには、返信させていただき、できるだけ授業内容の理解につながるように努めた。アンケート結果を受けて、感染予防等を徹底した上で、対面授業の場合は引き続き、質疑応答や学生間の意見交流を進めていきたいと考える。

遠隔授業に対しては、資料や映像を用いてオンデマンド形式で行ったが、内容に対しての質問や理解が難しい部分に対しては、3回に1回くらいのペースで、アンケートを取った上で希望者と対面形式で確認の授業を行った。改善点としては、課題の提出期限を長くしないことで、学ぶリズムができるので、短く期限を切つてため込まないように指導していくことも必要だと感じた。